料日日は一日		<b>等専門学校</b>	開講年度   令和05年度 (2	2023年度)	授業科目	数理統計学		
新田田学	4日基礎情報		,	/				
投票		0040		利日区分	事門 / 深圳	 구		
開設学科 メカトロニクス工学事政					,	•		
部別期				1				
数叫編/報材	3-20 3 1 1		-2/\	1				
担当教員    伊勢 月    到達日標   回動   日本		【教科書】 Excelで学	ぶ統計解析」(ナツメ社)、(2)菅民朗	)ための多変量解析 著「多変量解析の				
到達目標 (1) 欧明斯計明手法の概要及び計算結果について説明ができる。 (2) 現実の補間組に対して適切な妙理統計的手法の概要及び計算結果 展示のいて説明ができる。 現実の補間組に対して適切な数理 統計的手法の概要及び計算結 無理統計的手法の概要及び計算結 果について説明ができる。 現実の補間組に対して適切な数理 統計的手法を選択できる。 現実の補間組に対して適切な数理 統計等主義を選択できる。 現実の補間組に対して適切な数理 統計等主義を選択できる。 現実の補間組に対して適切な数理 統計等主義を選択できる。 現実の補間組に対して適切な数理 統計等主義を選択できる。  学科の到達目標項目との関係 本科で開達した権事・統計学に関する知識を基礎として、工学分野で応用される様々な数理統計的手法を選択できる。  本科で開達した権事・統計学に関する知識を基礎として、工学分野で応用される様々な数理統計的手法を通过で表面、対理統計会に対して適切な数理 統計等主義を選択できる。  本科で開達した権事・統計学に関する知識を基礎として、工学分野で応用される様々な数理統計的手法を適宜できる。  「表述の選めか・方法 日本演員は、課題所会計では、別事を選出をの認め、評価である。  「表述の選めが・方法 日本演員は、課題所会計画が表する。ともに、本科で学んだ健康・統計の内容を十分に理解していることが するなど機能的な学型差勢が求められる。ともに、本科で学んだ健康・統計の内容を十分に理解していることが もある。  「事業学習」(保護学型とめが家行することによって各選集の理解性を常に自己評価し、不十分は場合による。  「事業学習」(保護学型と対象が家の知る。ともに、本科で学んだ健康・統計の内容を十分に理解していることが 事務学書と対めの物理を指すること。 ・必要に応じて、シラノに定認しているの報告を実施しているが、事期・		_				3(7) (11) (44-1111/12)		
(1) 新興体計列手法の地震及び行資結果について説明ができる。 (2) 健実の設置的版「対して適切な数理を対する。 (2) 健実の設置的版「対して適切ができる。 (2) 健実の設置的版「対して適切ができる。 (3) 概要が計画を対してきないであります。 (4) 概要が計画を対してきないできる。 (4) 単元のいて力が説明ができる。 (4) 単元のいて力が説明ができる。 (4) 単元のいて力が説明ができる。 (5) 単元のいて力が説明ができる。 (4) 単元のいて対して適切ができる。 (5) 単元のいて対しに対してきないできる。 (5) 単元のいて対しに対してきないできる。 (5) 単元のいて対しに対してきないできる。 (5) 単元のいて対しに対してきないできる。 (5) 単元のいて対していて対しな数理 続けり手法を選択できる。 (5) 単元のできないできないで対していて、対していて対してきないで対していて対していて対していて対していて対します。 (5) 単元のできないで対していて対していて対していて対します。 (5) 単元のできないできないで対していて対していてが対している。 (5) 単元のできないで対していていていていていている。 (5) 単元のできないで対している。 (5) 単元のできないで対している。 (5) 単元のできないで対している。 (5) 単元のできないできないで対している。 (5) 単元のできないで対している。 (5) 単元のできないで対している。 (5) 単元のできないできないで対している。 (5) 単元のできないできないで対している。 (5) 単元のできないできないできないできないで対している。 (5) 単元のできないできないできないできないできないでする。 (5) 単元のできないでが、できないでは関係できないでは関係できないでは関係できないでは関係できないでは関係できないでは関係できないでは関係できないでは関係できないでは関係できる。 (5) 単元のできないでは関係できないでは関係できないでは関係できないでは関係できないでは関係が、ののでは関係できないでは関係が、ののでは関係できないでは関係が、ののでは関係できる。 (5) 単元のでは、(5) 単元のできないでは関係が、(5) 単元のでがのので表がはできる。 (5) 単元のでは、(5) 単元のできる。 (5) 単元のでは、(5) 単元のできる。 (5) 単元のでは、(5) 単元のできる。 (5) 単元のできないでは関係が、(5) 単元のできる。 (5) 単元のできないでは関係が、(5) 単元のできる。 (5) 単元のできないでは関係が、(5) 単元のできる。 (5) 単元のできないでは関係が、(5) 単元のできる。 (5) 単元のできないでは、(5) 単元のできないでは関係ができる。 (5) 単元ののがが、(5) 単元ののがが、(5) 単元ののので表ができる。 (5) 単元ののがが、(5) 単元ののので表ができる。 (5) 単元ののがが、(5) 単元ののので表ができる。 (5) 単元ののがが、(5) 単元ののので表ができる。 (5) 単元ののがが、(5) 単元のので表ができる。 (5) 単元ののがが、(5) 単元のので表ができる。 (5) 単元ののがが、(5) 単元のので表ができる。 (5) 単元のでをできないができる。 (5) 単元のでをできる。 (5) 単元のでをできないができる。 (5) 単元のでをできないができないができないができないができないができないができないができないが		11/35 37						
要想的な割塩レベルの目安  素明達レルルの目安  素明達レルルの目安  素明達しかに説明ができる。  現実の諸問題に対して選切な数理 統計的手法の概要及び計算結 果について認明ができる。 現実の諸問題に対して適切な数理 統計的手法を選択できる。  現実の諸問題に対して適切な数理 統計的手法を選択できる。  学科の到達目標項目との関係  教育方法等  本科で開講した確率・統計学に関する知識を基礎として、工学分野で応用される様々な数理統計の手法を選出できる。  学科の到達目標項目との関係  本科で開講した確率・統計学に関する知識を基礎として、工学分野で応用される様々な数理統計的手法を通りできない  学科の到達目標項目との関係  本科で開講した確率・統計学に関する知識を基礎として、工学分野で応用される様々な数理統計的手法を通过できる。  理解を受ける前に取り程素を必ず流行することによって名講義の理解度を常に自己評価し、不十分な場合に対するな対極的など習姿勢が求められる。さらに、本科で学人だ確率・統計の内容を十分に理解していることがある。  「事前学習」と事後学型を必ず流行することによって名講義の理解度を常に自己評価し、不十分な場合にすることに表して各種的の内容を十分に理解していることがある。  「事前学図」(投資を受ける前に取り組まなけれならおい・理例・・ 次回の授業報酬を製出書で参考書が入ったのよりによいましましましましましましましましましましましましましましましましましましまし	1)数理統計的手法の	概要及び計算 して適切な数3	結果について説明ができる。 埋統計的手法を選択できる。					
類型熱計的手法の側要及び計算結果について現的できる。 現実の諸問題に対して適切な数理 線について対対な影響ができる。 現実の諸問題に対して適切な数理 線に対して適切な数理 場に対して (大きな) (大き	レーブリック							
環について説明ができる。			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レイ	· いの目安	未到達レベルの目安		
解析的手法を選択できる。	数理統計的手法の概要及び計算結 果について説明ができる。			果について簡単に	こ説明ができる。	数理統計的手法の概要及び計算結 果について説明ができない。		
数音方法等 概要 本刊で開議した確率・統計学に関する知識を基礎として、工学分野で応用される様々な数理統計的手法を講述す 講義と演習の組み合わせにより授業を進める。 自治滞留は、提頭発表会(1906)と関連度確認フェスト(60%)で評価する。 建設素素へのコメント 以下に示す事的学習と当後学習を必ず遂行することによって各議業の理解度を常に自己評価し、不十分な場合にするなど積極的な学習を勢か求められる。さらに、本科で学んだ確率・統計の内容を十分に理解していることがある。 【事前学習】(授業を受ける前に取り組まなければならない事項)・次回の授業範囲を製作者や考書等(シラ)(ズの範別を用いて予留しておくこと。必要に応じて、シラ)(ズに記載している数料書や参考書)以外の外部や演習問題等に取り組むこと。・必要に応じて、シラ)(ズに記載している数料書や参考書)以外の例題や演習問題等に取り組むこと。・必要に応じて、シラ)(ズに記載している数料書を参考書)以外の例題や演習問題等にも取り組むこと。・必要に応じて、シラ)(ズに記載している数料書や参考書)以外の例題や演習問題等にも取り組むこと。・ 授業の属性・履修上の区分 「アクティブラーニング □ ICT 利用 □ 遠隔授業対応 □ 実務経験のある教員に、 授業計画  選 参変量解析概論、課題発表会の概要 多定量解析の意義及び種類について説明ができる。 13週 多変量解析概論、課題発表会の概要 多定量解析の意義及が種類について説明ができる。 3週 相関分析、クロス集計 ・ 記述統計に関する計算ができる。 3週 相関分析、クロス集計 ・ 記述統計    記述統計に関する計算ができる。 3週 相関分析				現実の諸問題に対して適切な数理 統計的手法をおおよそ選択できる 。		現実の諸問題に対して適切な数理 統計的手法を選択できない。		
概要 本科で開講した確率・統計学に関する知識を基礎として、工学分野で応用される様々な数理統計的手法を講述す 講義と満習の組み合わせにより授業を進める。 自主議員は、課期条金に向けた権での活動とする。 講題発表会(40%)と到速度権認定スト(60%)と対策を消している数とする。 講題発表会(40%)と到速度権認定スト(60%)と対策を対しているのとによって名講義の理解度を常に自己評価し、不十分な場合にするなどを積極的な手事と学習を必ず遂行することによって名講義の理解度を常に自己評価し、不十分な場合にするなどを積極的な手事と学習を必ず遂行することによって名講義の理解度を常に自己評価し、不十分な場合にするる。 (事前学習) (授業を受ける前に取り組まなければならない事項) ・ 次回の授業範囲を教科書や参考書等(シラ/又を参照)を利している対計書が参考書以外の例题や高されて予望した。 ・ 必要に応じて、シラ/スに記載している対計書が参考書以外の例题や通問問題等に関い組み、授業で学んだ内容を復習すること。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		目との関係	<del></del>					
授業の進め方・方法		±11-00-4	F   + Tdp://g	T** 1.1		L_1\24TB\45=  45 -7\4_1 = ++\1\		
最美術学会会(40%) と到遺産権認定スト(60%)で評価する。   連要議者へのコメント 以下に示す事前学習と事後学習を必ず遂行することによって各講義の理解度を常に自己評価し、不十分な場合にするなど積極的な学習姿勢が求められる。さらに、本科で学んだ確率・統計の内容を十分に理解していることがある。   「事前学習」(授業を受ける前に取り組まなければならない事項) - 次回の授業師間を教料書や参考書等(5つ) (人参照)を用いて予習しておくこと。 ・必要に応じて、シラバスに記載している教料者や参考書は外のかむのも活用すること。 「事後学習」(次の授業までに取り組まなければならない事項) - 課題発表会に向けて編稿にスケシュールを立て、計画的に取り組むこと。 ・ 教授に修して、シラバスに記載している教料書や参考書以外の機能や演習問題等にも取り組むこと。 ・ 教授に修して、シラバスに記載している教料書や参考書以外の機能や演習問題等にも取り組むこと。 ・ 教授に応じて、シラバスに記載している教料書や参考書以外の機能や演習問題等にも取り組むこと。 ・ 教授に応じて、シラバスに記載している教料書や参考書以外の機能や演習問題等にも取り組むこと。 ・ 授業の属性・履修上の区分  □ アクティブラーニング □ ICT 利用 □ 遠隔授業対応 □ 実務経験のある教員に  授業計画    週 授業内容   週ごとの列達目標   19週   多変量解析阅論、課題発表会の概要   多変量解析の意義及び種類について説明ができる。   2週 記述統計   記述統計に関する計算ができる。   4週 分散分析   分散分析できる。   4週 分散分析   日間所分析の概要及び計算結果について説明ができる。   4週 分散分析   単回帰分析の概要及び計算結果について説明が、	摆			<b>ლとして、工字分</b> 5	野で応用される様々	々な数埋統計的手法を講述する。		
以下に示す事前学習と事後学習を必ず変持することによって各講義の理解度を常に自己評価し、不十分な場合にするなど精極的な学習姿勢が求められる。さらに、本科で学んだ確率・統計の内容を十分に理解していることがある。  【事前学習】(授業を受ける前に取り組まなければならない事項)・次回の授業範囲を教科書や参考書等(シラバス参解)を用いて予習しておくこと。・必要に応じて、シラバスに記載している教科書や参考書以外のものも活用すること。 「事態発表会に向けて帰南にスクシュールを立て、計画的に取り組むこと。・教科書や参考書の外の例題や演習問題等にも取り組むこと。・教科書や参考書の外の例題や演習問題等にも取り組むこと。・教科書や参考書の外の例題や演習問題等にも取り組むこと。・教科書や参考書の外の例題や演習問題等にも取り組むこと。・教科書や参考書の外の例題や演習問題等にも取り組むこと。・教科書や参考書の外の例題や演習問題等にも取り組むこと。・教科書や参考書の外の例題や演習問題等にも取り組むこと。  「要業の属性・履修との区分  「ICT 利用 」	授業の進め方・方法 目宅演習は、課題発表会に向けた種々の活動とする。 課題発表会(40%)と到達度確認テスト(60%)で評価する。							
・課題発表会に向けて綿密にスケジュールを立て、計画的に取り組むこと。 ・	以下に示す事前学習と事後学習を必ず遂行することによって各講義の理解度を常に自己評価し、不十分な場合には質問するなど積極的な学習姿勢が求められる。さらに、本科で学んだ確率・統計の内容を十分に理解していることが必須である。  【事前学習】(授業を受ける前に取り組まなければならない事項)  注意点 ・次回の授業範囲を教科書や参考書等(シラバス参照)を用いて予習しておくこと。							
授業計画    週   授業内容   週ごとの到達目標   3を変量解析概論、課題発表会の概要   多変量解析の意義及び種類について説明ができる。   3週   相関分析、クロス集計   記述統計に関する計算ができる。   4週   分散分析   分散分析   分散分析ができる。   4週   分散分析   中回帰分析ができる。   1週   重回帰分析   中回帰分析ができる。   1週   車回帰分析   車回帰分析の概要及び計算結果について説明ができる。   東京の分析の概要及び計算結果について説明ができる。   東京の分析の概要及び計算結果について説明ができる。   1月   日本の分析の概要及び計算結果について説明ができる。   1月   日本の分析の概要及び計算結果について説明ができる。   1月   日本の分析の概要及び計算結果について説明ができる。   1月   日本の表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表別を表	受業の属性・履修	・課題発表 ・教科書や 」・必要に応	会に向けて綿密にスケジュールを立	て、計画的に取り終	組むこと。 み、授業で学んだ内 列題や演習問題等(	内容を復習すること。 こも取り組むこと。		
週 授業内容   週ごとの到達目標   1週 多変量解析概論、課題発表会の概要   多変量解析の意義及び種類について説明ができる。   2週 記述統計   記述統計に関する計算ができる。   3週 相関分析、クロス集計   相関分析、クロス集計ができる。   4週 分散分析   分散分析ができる。   5週 単回帰分析   単回帰分析の概要及び計算結果について説明ができる。   15個 単回帰分析   単回帰分析の概要及び計算結果について説明ができる。   10週 全分析   単別分析の概要及び計算結果について説明ができる。   10週 クラスター分析   フラスター分析の概要及び計算結果について説明ができる。   20週 数量化理論II類   数量化理論II類   数量化理論II類   数量化理論II類の概要及び計算結果について記明ができる。   20回 表示イック回帰分析   20回 表示イック回帰分析の概要及び計算結果について記明ができる。   20回 表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表		ング	□ ICT 利用	□ 遠隔授業対応	,	□ 実務経験のある教員による授業		
週 授業内容   週ごとの到達目標   1週   多変量解析概論、課題発表会の概要   多変量解析の意義及び種類について説明ができる。   2週   記述統計   記述統計   記述統計に関する計算ができる。   4週   分散分析   分散分析できる。   5週   単回帰分析   単回帰分析できる。   5週   単回帰分析   単回帰分析の概要及び計算結果について説明ができる。   13週   日東分析   単別分析の概要及び計算結果について説明ができる。   10週   クラスター分析   カラスター分析の概要及び計算結果について説明ができる。   11週   数量化理論II類   数量化理論II類   数量化理論II類の概要及び計算結果について説明ができる。   11週   数量化理論II類   数量化理論II類の概要及び計算結果について記明ができる。   11週   数量化理論II類   数量化理論II類の概要及び計算結果について記明ができる。   11週   数量化理論II類   数量化理論II類の概要及び計算結果について記明ができる。   11週   数量化理論II類   数量化理論II類の概要及び計算結果について記明ができる。   11週   数量化理論III類の概要及び計算結果について記述がまる。   11週   数量化理論III類の概要及び計算結果について記述できる。   11週   11』   1								
1週   多変量解析概論、課題発表会の概要   多変量解析の意義及び種類について説明ができる。   記述統計   記述統計に関する計算ができる。   3週   相関分析、クロス集計   相関分析、クロス集計ができる。   4週   分散分析   分散分析ができる。   5週   単回帰分析   単回帰分析ができる。   単回帰分析の概要及び計算結果について説明ができる。   10週   単別分析   単別分析の概要及び計算結果について説明ができる。   単別分析   単別分析の概要及び計算結果について説明ができる。   単別分析   単別分析の概要及び計算結果について説明ができる。   10週   クラスター分析   クラスター分析の概要及び計算結果について説明ができる。   カースター分析   クラスター分析の概要及び計算結果について説明ができる。   20週   数量化理論II類   数量化理論II類   数量化理論II類   数量化理論III類   数量化理論III類の概要及び計算結果に可以できる。   第1~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌関わる統計データを定量的に解析し、内的が内容の表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表	受業計画							
1stQ   記述統計   記述統計   記述統計に関する計算ができる。   3週   相関分析、クロス集計ができる。   4週   分散分析   分散分析   分散分析ができる。   5週   単回帰分析   単回帰分析ができる。   1回帰分析   単回帰分析の概要及び計算結果について説明ができる。   1月の   世回帰分析の概要及び計算結果について説明ができる。   1月の   世回帰分析の概要及び計算結果について説明ができる。   1月の   世回帰分析の概要及び計算結果について説明ができる。   日本の分析の概要及び計算結果について説明ができる。   日本の分析の概要及び計算結果について説明ができる。   日本の概要及び計算結果について説明ができる。   日本の概要及び計算結果について説明ができる。   日本の概要及び計算結果について記述ができる。   日本の概要及び計算結果について記述ができる。   日本の概要及び計算結果について記述ができる。   日本の概要及び計算結果について記述されていまます。   日本の概要及び計算結果について記述されていまます。   日本の概要及び計算結果について記述されていまます。   日本の概要及び計算結果について記述されていまます。   日本の概要及び計算結果について記述されていまます。   日本の概要及び計算結果について記述されていまます。   日本の概要及び計算結果について記述されていまます。   日本の概要及び計算結果について記述されていまます。   日本の概要及び計算結果に対していまます。   日本の概要及び計算結果について記述されていまます。   日本の概要をは対析の概要及び計算結果に対していまます。   日本の概要をは対析の概要及び計算結果に対していまます。   日本の概要をは対していまます。   日本の概要をは対していまます。   日本の概要をは対していまます。   日本の概要をは対し、日本のは対し、日本のは対し、日本のは対し、日本のは対し、日本のは対し、日本のは対し、日本のは対しは対します。   日本の概率をは対します。   日本の表述をは対します。   日本の表述をは述える。   日本の表述をは述える。   日本の表述をは述える		週	受業内容		週ごとの到達目標			
1stQ   相関分析、クロス集計   相関分析、クロス集計ができる。   4週 分散分析   分散分析   分散分析ができる。   5週 単回帰分析   単回帰分析ができる。   単回帰分析の概要及び計算結果について説明かっ。   7週 判別分析   判別分析の概要及び計算結果について説明ができる。   主成分分析の概要及び計算結果について説明ができる。   主成分分析の概要及び計算結果について説明ができる。   10週   クラスター分析   カラスター分析の概要及び計算結果について説明ができる。   11週   数量化理論II類   数量化理論II類   数量化理論III類   数量化理論III類   数量化理論III類の概要及び計算結果について記述のできる。   12週   数量化理論III類   数量化理論III類   数量化理論III類の概要及び計算結果について記述のできる。   13週   ロジスティック回帰分析   ロジスティック回帰分析の概要及び計算結果について記述を表述。   14週   課題発表会   第1~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌問の表述にデータを定置的に解析し、何らかのできる。   15~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌問の表述に対して記述の表述できる。   16~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌問の表述に対して記述の表述できる。   16~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌問の表述に対して記述の表述できる。   16~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌問の表述に対して記述の表述できる。   16~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌問の表述できる。   16~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌問の表述できる。   16~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌問の表述できる。   16~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌問の表述できる。   16~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌聞の表述できる。   16~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌聞の表述できる。   16~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌聞の表述できる。   16~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌聞の表述できる。   16~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌聞の表述できる。   16~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌聞の表述できる。   16~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌聞の表述できる。   16~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌聞の表述できる。   16~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌聞の表述を表述できる。   16~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌聞の表述できる。   16~13週に学んだ知識と対域を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を表述を		1週 多	多変量解析概論、課題発表会の概要		多変量解析の意義	及び種類について説明ができる。		
1stQ   25週		2週 訂	已述統計		記述統計に関する計算ができる。			
1stQ   単回帰分析   単回帰分析ができる。   重回帰分析の概要及び計算結果について説明か。   1別分析   判別分析の概要及び計算結果について説明ができる。   主成分分析の概要及び計算結果について説明ができる。   主成分分析の概要及び計算結果について説明ができる。   10週   クラスター分析   クラスター分析   クラスター分析の概要及び計算結果について説明ができる。   数量化理論I類   数量化理論I類及びII類の概要及び計算結果について記言さる。   11週   数量化理論II類   数量化理論II類   数量化理論II類の概要及び計算結果について記言さる。   数量化理論III類の概要及び計算結果について記言さる。   13週   ロジスティック回帰分析   ロジスティック回帰分析の概要及び計算結果について記言さる。   第1~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌関かる統計データを定量と的に解析し、何らかの導出できる。   第1~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌関かる統計データを定量と的に解析し、何らかの導出できる。   あるいは、一般向け講座資料が代る。また、分かりやすくその内容を講義できる。   また、分かりやすくその内容を講義できる。   また、分かりやすくその内容を講義できる		3週 相	目関分析、クロス集計		相関分析、クロス集計ができる。			
13週		4週 分	分散分析		分散分析ができる。			
13週	1stO	5週			単回帰分析ができる。			
7週   判別分析   判別分析の概要及び計算結果について説明ができる。			등다!! 스타드		重回帰分析の概要及び計算結果について説明ができる			
10週   全成分分析   全成分分析の概要及び計算結果について説明かっ。   10週   クラスター分析   クラスター分析の概要及び計算結果について説明がてきる。   12週   数量化理論III類   数量化理論III類   数量化理論III類   数量化理論III類の概要及び計算結果について記言さる。   12週   数量化理論III類   数量化理論III類の概要及び計算結果について記言さる。   12週   数量化理論III類   数量化理論III類の概要及び計算結果について記言さる。   13週   ロジスティック回帰分析   ロジスティック回帰分析の概要及び計算結果に   説明ができる。   第1~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌関わる統計データを定量的に解析し、何らかの   第1~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌関わる統計データを定量的に解析し、何らかの   第1~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌   14週   第1~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌   14週   第1~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌   14週   第1~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌   14週   14		0週 事	3.30分析		0			
10週   日子分析   日子分析の概要及び計算結果について説明がて   フラスター分析の概要及び計算結果について説明がて   フラスター分析の概要及び計算結果について記   さる。		7週 半	別分析		判別分析の概要及び計算結果について説明ができる。			
9週   因子分析   因子分析の概要及び計算結果について説明がて		8调 🗎	=成分分析		主成分分析の概要及び計算結果について説明ができる			
10週 クラスター分析						<b>7~=1~×+=1~~・・</b>		
2ndQ					因子分析の概要及び計算結果について説明ができる。 クラスター分析の概要及び計算結果について説明ができる。			
2ndQ   数量化理論III類   数量化理論III類の概要及び計算結果について記言る。		11週 数			数量化理論I類及びII類の概要及び計算結果について説			
2ndQ       13週       ロジスティック回帰分析       ロジスティック回帰分析の概要及び計算結果に説明ができる。         14週       課題発表会       第1~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌関わる統計データを定量的に解析し、何らかの導出できる。あるいは、一般向け講座資料が作る。また、分かりやすくその内容を講義できる。		12週 数	ー 量化理論III類		数量化理論III類の概要及び計算結果について説明がで			
14週 課題発表会 関わる統計データを定量的に解析し、何らかの 導出できる。あるいは、一般向け講座資料が作 る。また、分かりやすくその内容を講義できる	2ndQ	13週 🗆	ジスティック回帰分析		<del>i</del>			
		14週 : 語	題発表会		第1~13週に学んだ知識と技術を活用して和歌山県に関わる統計データを定量的に解析し、何らかの知見を導出できる。あるいは、一般向け講座資料が作成できる。また、分かりやすくその内容を講義できる。			
15週		15週 至	達度確認テスト		第1~13週の項目の問題を解くことができる。			
16週	1							
		I U /(型						
	 =デルコアカリキ		学習内容と到達日標	-				
		ニュラムの学				到達しベル、授業個		
			学習内容と到達目標 学習内容 学習内容の到達目標	西京		到達レベル 授業週		

	課題発表会	到達度確認テスト	合計
総合評価割合	40	60	100
基礎的能力	20	30	50
応用的能力	20	30	50